

中学校美術教科書に掲載された作品等の図版の分析

| | |
|----------|---|
| 著者 | 畔田 暁子, 八巻 龍, 鈴木 佳苗 |
| 著者別名 | Kuroda Akiko, Yamaki Ryo, Suzuki Kanae |
| 雑誌名 | 図書館情報メディア研究 |
| 巻 | 12 |
| 号 | 2 |
| ページ | 35-42 |
| 発行年 | 2015-03-31 |
| その他のタイトル | Analysis of the Plates Representing Works of Art in Japanese Junior High School Art Textbooks |
| URL | http://doi.org/10.15068/00124054 |

中学校美術教科書に掲載された作品等の図版の分析

畔田暁子*, 八巻 龍**, 鈴木佳苗***

Analysis of the Plates Representing Works of Art in Japanese Junior High School Art Textbooks

Akiko KURODA, Ryo YAMAKI and Kanae SUZUKI

抄録

美術科の鑑賞学習における身近な鑑賞教材として、教科書に掲載されている図版がある。本研究では、中学校美術教科書における、作品等の図版掲載の傾向を明らかにすることを目的とし、平成24年に発行された全中学校美術教科書に掲載されている作品等の図版の分析を行った。作品等の図版数は、第1学年の教科書では480、第2・3学年の教科書では1,068であった。その結果、1) 形状としては、「立体」的な作品等の掲載率が、すべての学年の教科書でもっとも高かったこと、2) 作者としては、「生徒」による作品等の掲載率は、第1学年の教科書では54.4%で、第2・3学年の教科書の37.4%に比べて高かったこと、3) 国・地域としては、「日本」の作品等の掲載率が、すべての学年の教科書でもっとも高かったこと、4) 分野・領域としては、「デザイン・工芸性がある」作品等の掲載率は、第2・3学年の教科書よりも第1学年の教科書の方が高く(第1学年:47.3%, 第2・3学年:36.5%), 「文化的・民俗的性質がある」作品等は、第1学年の教科書よりも第2・3学年の教科書の方が高かった(第1学年:17.3%, 第2・3学年:25.5%) ことなどが示された。本研究の結果を踏まえて、鑑賞学習における教科書の利用方法や教科書以外の教材との補完方法を検討していくことが望まれる。

Abstract

The plates in art textbooks give representations of works of art and serve as familiar teaching materials for art appreciation study in art classes. This study analyzed plates in Japanese junior high school art textbooks published in 2012 to identify tendencies in them. The number of plates evaluated as data was 480 in the seven-grade textbooks and 1,068 in the textbooks for the eighth and ninth grades. The main findings of this study were as follows. First, in terms of shape and dimensions, the largest proportion of works in textbooks across grades was three-dimensional. Second, the proportion of works by junior high students in textbooks for the seventh-grade was higher (54.4%) than that for the eighth and ninth grades (37.4%). Third, the largest proportion of works in textbooks across grades was Japanese works. Fourth, the proportion of works with a design, craft, or industrial character in the seventh-grade textbooks was higher (47.3%) than that for the eighth and ninth grades (36.5%), and the proportion of works with a cultural or folk character in textbooks for the eighth and ninth grades was higher (25.5%) than that for the seventh grade (17.3%). In the light of these results, it is desirable to investigate how best to use art textbooks to complement other teaching materials in art appreciation study.

- * 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程
Doctoral Program
Graduate School of Library, Information and Media Studies
University of Tsukuba
- ** 株式会社内田洋行
UCHIDA YOKO CO., LTD.
- *** 筑波大学図書館情報メディア系
Faculty of Library, Information and Media Science
University of Tsukuba

1. はじめに

1.1 中学校美術科における資料不足の状況

現行の中学校美術科において、「鑑賞の能力」は評価規準の1つとされている。中学校美術科の学習指導要領解説(文部科学省, 2008)における鑑賞の学習目標には, 作品の表現への理解と見方を深めたり, 日本及び諸外国の美術の文化遺産を尊重したり, 生活と美術との深いかわりを理解するなどの目標が掲げられている。

近年こうした鑑賞の能力の育成が重視されてきている(北村, 2006; 三根, 2000)が, 鑑賞学習の授業実施には, 教材として利用可能な資料が乏しいという問題が指摘されている。2003年度の全国調査(日本美術教育学会研究部, 2004)の結果によれば, 「鑑賞学習指導への取組み」に対して消極的な中学校美術科担当教員のうち44.8%が, 「鑑賞学習指導への取組みに消極的な理由」として, 「提示する資料が乏しい」と回答している。また, 「鑑賞学習を進めるために必要な改善点」としては, 31%の中学校美術科担当教員が, 「鑑賞の学習指導に利用できる資料の充実」と回答している。このように, 中学校美術科で鑑賞学習の指導を行うには, 「提示する資料」や「学習指導に利用できる資料」などの授業教材を入手することが難しいという課題がある。

鑑賞学習においては, 作品そのものなど, 実物を鑑賞することが重要である。実物の鑑賞について学習指導要領解説(文部科学省, 2008)には, 「鑑賞作品については, 実物と直接向かい合い, 作品のもつよさや美しさを実感をもってとらえさせることが理想である」と述べられている。しかし, 「それができない場合は, 大きさや材質感など実物に近い複製, 作品の特徴がよく表されている印刷物, ビデオ, コンピュータなどを使い, 効果的に鑑賞指導を進めることが必要である」と記されている。

1.2 中学校美術科における教科書の利用

実物を用いた鑑賞学習が難しい場合に利用される複製の教材にはさまざまなものがある(古藤, 2008; 三根, 2000)が, すべての生徒が所有しており, 特別な道具や機器等を準備する必要のない教科書は, 身近な鑑賞教材としてよく利用されている。教科書は, 「文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならない」(学校教育法第34条および第49条)とされており, 中学校において美術教科書は生徒全員に配布される。これまでに, 「法的に使用を義務づけられている教科書であるが, 図画工作・美術科では授業においては必ずしも十分に活用

されているとは言えない」(三澤, 2002)という指摘があった。しかし, 「鑑賞学習の教材教具」としては, 先述の2003年度の調査では, 教科書を「たいへんよく使う」または, 「どちらかというを使う」を選択した中学校教員は69.1%であった。また, 2011年の調査では, 中学校美術科の鑑賞学習指導において, 教科書は美術科担当教員からよく利用されていたという結果が示された(畔田・鈴木, 2013)。中学校美術科の鑑賞学習の授業で生徒が行う活動には大きく分けて3つの内容があり(福本・水島編著, 2009; 文部科学省, 2008), それは, 「造形的なよさや美しさなどを感じ取り見方を深め, 幅広く味わう」(表1のA)授業と, 「生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解を深める」(表1のB)授業と, 「日本や諸外国の美術や文化への理解を深め, 関心を高める」(表1のC)授業である。これら3つの活動内容すべての授業において教科書はよく利用されており, その利用率は, 活動内容Aの授業では84.9%, 活動内容Bの授業では73.3%, 活動内容Cの授業では83.3%であった(畔田・鈴木, 2013)。教科書の利用が多かった授業場面は, 導入・展開場面であった。

このように鑑賞学習の授業でよく利用されている教科書に関しては, 教育のデジタル化推進の状況も考慮に入れる必要がある。教科書は現在, さまざまな教科において電子化されてきているが, わが国の中学校美術科において, 電子形式の教科書はまだ普及していない。しかし, コンテンツやテストの学習教材を構成する基本単位である, ラーニング・オブジェクトのメタデータ(Learning Object Metadata)の整備や, 電子書籍規格ePub3を基本としたEDUPUB等の電子教科書規格の国際標準化が推進されてきており(田村, 2014), いずれ美術科においても電子教科書の開発が促進される可能性がある。今後, 電子形式の美術教科書とオープンなデジタルアーカイブなどをリンクさせ, 授業でさまざまな画像が利用できることになる可能性があると考えられるため, 美術教科書における現時点での作品等の図版掲載にどのような傾向があるかを把握することには意義があると考えられる。

表1 鑑賞学習の授業における生徒の活動内容

| |
|-----------------------------------|
| A: 造形的なよさや美しさなどを感じ取り見方を深め, 幅広く味わう |
| B: 生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解を深める |
| C: 日本や諸外国の美術や文化への理解を深め, 関心を高める |

1.3 中学校美術教科書の図版分析

わが国における中学校美術教科書の分析に関する研究としては、川口ら（1995）が、日本文教出版株式会社の中学校美術教科書である美術1、美術2・3上および美術2・3下を対象として、鑑賞の領域で「学べること」などを挙げた研究や、三澤（2002）が、日本の美術科の教科書は「題材を提案する形でまとめられて」おり、その特徴は「表現の多様性を打ちだしている点である」と指摘した研究があるが、これらの研究では中学校美術教科書に掲載された図版に関する分析は行われていない。

わが国の中学校美術教科書に掲載された図版を分析した研究としては、胡（2006）の、「中日中学校美術教科書の参考作品図版の取り扱い方を比較し、両国の教科書の特徴を明らかにすることを目的とした」研究がある。この研究において胡は、各分野の作品図版数、作品図版における編集内容、自国作家作品数の比較を行い、その結果、「中国では創作活動、自国伝統的な美術を重視しており、指導書の性格が強く、日本では作品が多く掲載されており、作品の鑑賞の場となっている」と指摘した。中学校美術教科書を出版している開隆堂出版株式会社の美術教科書編集の基本方針には、「豊富な大型図版を使って教科書で作品鑑賞の授業ができる教科書」というものがある（日本造形教育研究会，2012）。2006年の時点で、わが国の中学校美術教科書には作品が多く、教科書が作品の鑑賞の場となっていることが指摘されたが、上記の編集方針に鑑みると、他の出版社の教科書を含め、2012年に発行された現行の教科書にもそのような特徴があることが推察される。美術教科書の図版分析にあたって胡は、「モチーフ図版」、「生徒作品」、「作家作品」、「学習場面写真」、「手順解説」、「その他」の6種類の分類を設けた。これは、作品等だけでなく掲載されていた図版すべてを分析したためである。

本研究では、教科書の鑑賞教材としての役割に着目して、掲載されている図版を、（1）形状、（2）作者、（3）国・地域、（4）分野・領域という4つの観点から分類することとした。（1）の形状の観点からの分析では、教科書に掲載されている作品等を図版でどの程度鑑賞可能か、ということについて判断できると考えられる。（2）の作者の観点からの分析では、生徒にとって身近であり参考にしやすいと考えられる生徒作品等と、授業において通常実物を鑑賞することが難しい作家等による作品等が、どの程度の比率で掲載されているかという実態を把握することができる。（3）の国・地域の観点からの分析では、教科書の図版で鑑賞できる作品等として、どの国・地域の作品等がどの程度の比率で掲載さ

れているかという実態を把握することができ、また、中学校美術科の学習内容である、日本の美術への理解や、美術を通じた国際理解を目標とした授業で利用できる教材となりうる作品等が、どの程度の比率で掲載されているかという実態を把握することができる。（4）の分野・領域の観点からの分析では、「生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解を深める」（活動内容B）授業や、「日本や諸外国の美術や文化への理解を深め、関心を高める」（活動内容C）授業で利用できる教材となりうる作品等がどの程度の比率で掲載されているかという実態を把握することができる。

今後、教科書を用いてより充実した鑑賞学習の授業を行っていくために、以上のような観点から美術教科書に掲載されている作品等の図版を分類して掲載の傾向を明らかにすることは、教科書の利用方法や、教科書以外の教材との補完方法を研究するために意義があると考えられる。

2. 目的と方法

2.1 目的

わが国において平成24年に発行された、文部科学省検定済のすべての中学校美術教科書に掲載された作品等の図版を調査対象とし、中学校美術教科書における、作品等の図版掲載の傾向を明らかにする。

2.2 方法

【対象】

わが国において平成24年に発行された、文部科学省検定済の中学校美術教科書である、開隆堂出版株式会社（以下、開隆堂出版と記載）の「美術1」、「美術2・3」（日本造形教育研究会，2012）、日本文教出版株式会社（以下、日本文教出版と記載）の「美術1」、「美術2・3上」、「美術2・3下」（春日他，2012）、光村図書出版株式会社（以下、光村図書出版と記載）の「美術1」、「美術2・3上」、「美術2・3下」（酒井他，2012）を調査対象とした（表2）。

分析対象としたのは、掲載されている作品等に関する作者情報などが付随されている図版のみであり、また、学習風景など図版の掲載趣旨が作品等そのものの紹介ではないものについては、本研究では調査の対象外とした。本研究で分析対象とした図版の合計数は、3学年すべての教科書では1,548、第1学年の教科書では480、第2・3学年の教科書では1,068であった（表3）。

また、出版社別に見ると、全学年で見た場合の図版数は、開隆堂出版600、日本文教出版521、光村図書出版

427であった(表3)。学年を分けると、第1学年の教科書における図版数は、開隆堂出版168、日本文教出版175、光村図書出版137であった。第2・3学年の教科書における図版数は、開隆堂出版432、日本文教出版346、光村図書出版290であった。

【調査項目】

中学校美術教科書に掲載されている図版を分類する観点とは、(1)形状、(2)作者、(3)国・地域、(4)分野・領域の4つの観点である。以上の4つの観点において、それぞれ以下のようなコードを用いた。

(1) 形状

形状の観点では、「平面」、「立体」、「立体性はないが図版から全体的に鑑賞することができないもの」、「判断不可能」の4つのコードを用いた。「平面」は絵画など平面性が強い作品等とした。「立体」は彫刻など立体性があるため図版で作品を全体的に鑑賞することができない作品等、本来立体的に鑑賞されるものとした。「立体性はないが図版から全体的に鑑賞することができないもの」は、絵画やアニメーション作品等を部分的に掲載しているものなど、立体性はないものの図版から全体的に鑑賞することができない作品等とした。ただし、冊子体の表紙のみが掲載されている場合など、その作品等が部分的に掲載されているものであっても、その一部分を掲載することで教科書としての目的が果たされていると考えられる場合は「平面」に分類することとした。「判断不可能」は、ビデオインストールや行為を含む作品など、形状として分類することができないものとした。

(2) 作者

作者の観点では、「生徒」、「作家等生徒以外」、「判断不可能」の3つのコードを用いた。「生徒」には、国内外の生徒を含めた。

(3) 国・地域

国・地域の観点では、「日本」、「アジア(日本以外)」、「ヨーロッパ(英国を含む)」、「北米」、「中南米」、「アメリカ」、「オセアニア」、「その他」、「不明」の9つのコードを用いて分類した。

(4) 分野・領域

分野・領域の観点では、「デザイン・工芸性がある」および「文化的・民俗的性質がある」のコードを用い、複数コードへの該当、あるいはどちらのコードにも該当しない場合も可とした。「デザイン・工芸性がある」ものとしては、ポスター、マーク、建築、家具、食器などがある。この分野・領域に該当するものは、おもに「生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解を深める」(活動内容B)授業で鑑賞対象となると考えられる。また、「文化的・民俗的性質がある」ものとしては、文化遺産、宗教美術、伝統工芸品や民芸品、民具などがある。この分野・領域に該当するものは、おもに「日本や諸外国の美術や文化への理解を深め、関心を高める」(活動内容C)授業で鑑賞対象となると考えられる。

3. 結果・考察

各コードへの図版の分類に客観性を持たせるため、教科書全8冊のそれぞれ約20%相当となるページ分に掲載されていた図版計322点を対象として、2名(1名は

表2 出版社別教科書の種類とページ数

| | 各教科書のページ数 | | | |
|--------|-----------|------|-------|------|
| | 1年 | | 2・3年 | |
| 開隆堂出版 | 1年 | : 49 | 2・3年 | : 93 |
| 日本文教出版 | 1年 | : 47 | 2・3年上 | : 47 |
| | | | 2・3年下 | : 47 |
| 光村図書出版 | 1年 | : 55 | 2・3年上 | : 51 |
| | | | 2・3年下 | : 47 |

表3 教科書別に見た掲載図版数

| | 学年と掲載図版数 | | | | | |
|--------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 1年 | | 2・3年 | | 全学年 | |
| 開隆堂出版 | 1年 | : 168 | 2・3年 | : 432 | | 600 |
| 日本文教出版 | 1年 | : 175 | 2・3年上 | : 173 | 2・3年下 | : 173 |
| 光村図書出版 | 1年 | : 137 | 2・3年上 | : 167 | 2・3年下 | : 123 |
| 計 | | 480 | | 1068 | 1548 | |

コードの作成者, もう1名は作業の分類作業を依頼した大学院生)で分類作業を行った。図版の分類結果の単純一致率は, 4つのカテゴリ全体では97.3%, (1) 作者では99.1%, (2) 形状では95.7%, (3) 国・地域では99.1%, (4) 分野・領域では95.4%であった。

生徒作品と一部の工業品などを除くほとんどの作品等について, 材質, 寸法, 制作年, 所蔵場所, 作者名, 作者の生年(・没年)および国などの情報が記載されていた。

3.1 4つの観点

(1) 形状

形状の観点から見ると, 3学年全体では, 「立体」的な作品等の図版数が779 (50.3%) でもっとも多く, 「平面」的な作品等は707 (45.7%), 「立体性はないが図版から全体的に鑑賞できないもの」は47 (3.0%) であった(表4)。学年別に見ても, 「立体」的な作品等の図版数は, 第1学年の教科書で239 (第1学年の教科書に掲載されている図版の49.8%), 第2・3学年の教科書で540 (第2・3学年の教科書に掲載されている図版の50.6%) でもっとも多かった。「平面」的な作品等の図版数は, 第1学年の教科書では215 (44.8%), 第2・3学年の教科書では492 (46.1%) で, いずれも2番目に高い割合であった。「立体性はないが図版から全体的に鑑賞することができないもの」は, 3学年全体では47 (3.0%), 第1学年では20 (4.2%), 第2・3学年では27 (2.5%) であった。「判断不可能」のものは, 3学年全体では15 (1.0%), 第1学年では6 (1.3%), 第2・3学年では9 (0.8%) であった。このように, 平面的な作品等とともに, 立体的な作品等, 図版から全体的に鑑賞することが難しい形状の作品等も多く掲載されていた

め, 鑑賞の授業では, 立体性を有する教材や対象を全体的に映したビデオ教材, 教員の解説などによって, 失われた情報を補足する必要があると考えられる。

(2) 作者

作者の観点から見ると, 3学年全体では, 「作家等」による図版数が888 (57.4%), 「生徒」による作品等の図版数が660 (42.7%) であった(表5)。「判断不可能」に分類された図版はなかった。また, 「生徒」はほとんどすべてが日本の生徒であった。「生徒」による作品等の図版数は, 第1学年の教科書のみで見ただけの場合は261(第1学年の教科書に掲載されている図版の54.4%) で, 第2・3学年の教科書で見ただけの場合の399 (第2・3学年の教科書に掲載されている図版の37.4%) に比べて割合が高かった。中学校第1学年の美術の学習は, 小学校の図画工作を引き継ぎ, 楽しく美術に取り組むことが重要とされており(春日他, 2012; 日本造形教育研究会, 2012), 「美術との出会い」が1つの目的となっている(春日他, 2012)。教科書に掲載する図版として, 生徒にとって美術を身近に感じさせる生徒作品を重要視する傾向が示唆された。

(3) 国・地域

国・地域の観点から見ると, 3学年全体では, 「日本」の図版数が1,152 (74.4%) でもっとも多かった(表6)。次に多かったのは「ヨーロッパ」の237 (15.3%) で, 「アジア」の77 (5.0%), 「北米」の57 (3.7%) が続いた。学年別に見た場合でも, 「日本」の図版数は第1学年の教科書で392 (第1学年の教科書に掲載されている図版の81.7%), 第2・3学年の教科書で760 (第2・3学年の教科書に掲載されている図版の71.2%) でのとももっと

表4 掲載図版数：分類(1) 形状

| | 形状 | | | | 計 |
|------|-----|-----|------------------------------|-------|------|
| | 平面 | 立体 | 立体性はないが図版から全体的に鑑賞することができないもの | 判断不可能 | |
| 1年 | 215 | 239 | 20 | 6 | 480 |
| 2・3年 | 492 | 540 | 27 | 9 | 1068 |
| 全学年 | 707 | 779 | 47 | 15 | 1548 |

表5 掲載図版数：分類(2) 作者

| | 作者 | | 計 |
|------|-----|-----|------|
| | 生徒 | 作家等 | |
| 1年 | 261 | 219 | 480 |
| 2・3年 | 399 | 669 | 1068 |
| 全学年 | 660 | 888 | 1548 |

も多く、「ヨーロッパ」は2番目の割合であった(第1学年:39, 8.1%/第2・3学年:198, 18.5%)。国・地域として「日本」のものが全体の図版数の7~8割を占めた背景には、生徒作品の掲載率が高く(表3)、そのほとんどすべてが日本の生徒作品であったことが影響している。今後は、美術を通じた国際理解などの学習目標との関係から、美術の教科書に掲載されている図版を分析することが必要であると考えられる。

(4) 分野・領域

「デザイン・工芸性がある」と考えられた作品等は、3学年全体では617(39.9%)、「文化的・民俗的性質がある」と考えられた作品等は355(22.9%)であった(表7)。学年別に見ると、「デザイン・工芸性がある」作品等の割合は、第1学年の教科書では227(第1学年の教科書に掲載されている図版の47.3%)で、第2・3学年の390(第2・3学年の教科書に掲載されている図版の36.5%)より高かった。逆に、「文化的・民俗的性質がある」作品等は第2・3学年が272(25.5%)で、第1学年の83(17.3%)より高かった。すなわち、第1学年の教科書では、「生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解を深める」(活動内容B)授業で利用できる

鑑賞教材が比較的豊富であり、第2・3学年の教科書では、「日本や諸外国の美術や文化への理解を深め、関心を高める」(活動内容C)授業で利用できる鑑賞教材が比較的豊富であると考えられる。今後は、「デザイン・工芸性がある」作品等および「文化的・民俗的性質がある」作品等を細分化して分析し、授業における生徒の活動内容や学習目標との関係から、美術の教科書に掲載されている図版を分析することが必要である。

3.2 出版社別の傾向

3つの出版社別に掲載図版を見ると、形状の観点から見た場合、開隆堂出版では「平面」が277(46.2%:開隆堂出版の教科書に掲載されている図版において。以下、%の記載方法は同様のものとする。),「立体」が293(48.9%),日本文教出版では「平面」が238(45.7%),「立体」が269(51.6%),光村図書出版では「平面」が192(45.0%),「立体」が217(50.8%)であり、どの出版社においても図版掲載率は「立体」がもっとも高く、「平面」が2番目であった(表8)。

作者の観点で見た場合、開隆堂出版では「生徒」が302(50.3%),「作家等」が298(49.7%),日本文教出版では「生徒」が230(44.2%),「作家等」が291(55.9%),

表6 掲載図版数：分類(3) 国・地域

| | 国・地域 | | | | | | | | | 計 |
|------|------|-----|-------|----|-----|------|-------|-----|----|------|
| | 日本 | アジア | ヨーロッパ | 北米 | 中南米 | アフリカ | オセアニア | その他 | 不明 | |
| 1年 | 392 | 32 | 39 | 9 | 2 | 2 | 0 | 0 | 4 | 480 |
| 2・3年 | 760 | 45 | 198 | 48 | 5 | 6 | 1 | 1 | 4 | 1068 |
| 全学年 | 1152 | 77 | 237 | 57 | 7 | 8 | 1 | 1 | 8 | 1548 |

表7 掲載図版数：分類(4) 分野・領域

| | 分野・領域 | | 計 |
|------|---------|-------|-----|
| | デザイン・工芸 | 文化・民俗 | |
| 1年 | 227 | 83 | 310 |
| 2・3年 | 390 | 272 | 662 |
| 全学年 | 617 | 355 | 972 |

表8 掲載図版数：出版社別の分類(全学年)

| | 形状 | | | 作者 | | 国・地域 | | | | 分野・領域 | |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-------|-----|---------|-------|
| | 平面 | 立体 | その他 | 生徒 | 作家等 | 日本 | アジア | ヨーロッパ | その他 | デザイン・工芸 | 文化・民俗 |
| 開隆堂出版 | 277 | 293 | 29 | 302 | 298 | 457 | 30 | 83 | 29 | 215 | 128 |
| 日本文教出版 | 238 | 269 | 14 | 230 | 291 | 384 | 22 | 89 | 27 | 226 | 104 |
| 光村図書出版 | 192 | 217 | 19 | 128 | 299 | 311 | 25 | 65 | 26 | 176 | 123 |

注1: 形状の「その他」は、「立体性はないが図版から全体的に鑑賞することができないもの」あるいは「判断不可能」に分類されたものを指す。

注2: 国・地域の「その他」は、「北米」あるいは「中南米」あるいは「アフリカ」あるいは「オセアニア」あるいは「その他」あるいは「不明」に分類されたものを指す。

光村図書出版では「生徒」が128 (30.0%), 「作家等」が299 (70.0%) であり, 光村図書出版では他の出版社と比較して「作家等」の図版掲載率が高かった。

国・地域の観点で見た場合, 開隆堂出版では「日本」が457 (76.2%), 「ヨーロッパ」が83 (13.8%), 「アジア」が30 (5.0%), 「その他」が29 (4.8%), 日本文教出版では「日本」が384 (73.7%), 「ヨーロッパ」が89 (17.1%), 「アジア」が22 (4.2%), 「その他」が27 (5.2%), 光村図書出版では「日本」が311 (72.8%), 「ヨーロッパ」が65 (15.2%), 「アジア」が25 (5.9%), 「その他」が26 (6.1%) であった。どの出版社においても, 図版掲載率は「日本」がもっとも高く, 「ヨーロッパ」が2番目であった。

分野・領域の観点で見た場合, 開隆堂出版では「デザイン・工芸」が215(35.8%), 「文化・民俗」が128(21.3%), 日本文教出版では「デザイン・工芸」が226 (43.4%), 「文化・民俗」が104 (20.0%), 光村図書出版では「デザイン・工芸」が176 (41.2%), 「文化・民俗」が123 (28.8%) であった。「デザイン・工芸」は日本文教出版で, 「文化・民俗」は光村図書出版でもっとも掲載率が高かった。

4. 結論

本研究では, 中学校美術教科書における図版掲載の傾向を明らかにすることを目的とし, 平成24年に発行された全教科書に掲載されている作品等の図版の分析を行った。その結果, (1) 形状としては, 「立体」的である作品等の図版の割合は, 全学年の教科書においてももっとも高く, 図版から全体的に鑑賞することが難しい形状の作品等も多く掲載されていたこと, (2) 作者としては, 「生徒」による作品等の図版の割合は, 第1学年の教科書では54.4%で, 第2・3学年の教科書の37.4%に比べて割合が高かったこと, (3) 国・地域としては, 「日本」の作品等の図版の割合が, 全学年の教科書においてももっとも高かったこと, (4) 分野・領域としては, 「デザイン・工芸性がある」ものの割合は, 第2・3学年の教科書よりも第1学年の教科書の方が高く (第1学年: 47.3%, 第2・3学年: 36.5%), 「文化的・民俗的性質がある」ものの割合は, 第1学年の教科書よりも第2・3学年の教科書の方が高かった (第1学年: 17.3%, 第2・3学年: 25.5%) ことなどが示された。すなわち, 第1学年の教科書では, 「生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解を深める」(活動内容B) 授業で利用できる鑑賞教材が比較的豊富であり, 第2・3学年の教科書では, 「日本や諸外国の美術や文化への理解を

深め, 関心を高める」(活動内容C) 授業で利用できる鑑賞教材が比較的豊富であることが示唆された。

今後の課題としては, 以下の2点が挙げられる。第1に, 美術科の鑑賞学習における学習目標との関係から, 美術教科書に掲載されている図版を分析することである。その際には, より細分化した分析が求められると考えられる。第2に, 今後中学校美術科における電子教科書の開発が促進される可能性を考慮して, 現在比較的豊富である作品等の図版をどのように鑑賞学習の授業で利用できるかについて, また, 現在比較的不足している作品等の図版をどのように補っていきけるかについて, 検討することである。

本研究の結果を踏まえて, 美術科の鑑賞学習の授業における教科書の利用方法や, 教科書以外の教材との補完方法を検討していくことが望まれる。

引用・参考文献

- 福本謹一, 水島尚喜編著. 平成20年改訂 中学校教育課程講座 美術. ぎょうせい, 2009.
- 胡文涛. 中国と日本における中学校美術教科書の比較研究: 掲載された作品図版の比較を中心に. 美術教育学: 美術科教育学会誌. 2006, 27, pp.161-172.
- 春日明夫他. 美術1. 日本文教出版, 2012.
- 春日明夫他. 美術1 美術との出会い教師用指導書. 日本文教出版, 2012.
- 春日明夫他. 美術2・3上 生活の中に生きる美術教師用指導書. 日本文教出版, 2012.
- 春日明夫他. 美術2・3下 社会に広がる美術教師用指導書. 日本文教出版, 2012.
- 川口政宏, 原田万智子, 福田隆眞. 中学校美術科における題材の分析と学習内容 (<特集>教科教育). 教育実践総合センター研究紀要. 1995, 7, pp.195-204.
- 北村英之. 美術鑑賞教育の意義と実践. 同志社政策科学研究. 2006, 8 (1), pp.61-72.
- 古藤泰弘. 教材の種類・形態とその働き. 日本教材学会編. 「教材学」現状と展望. 日本教材学会設立20周年記念論文集. 2008, pp.64-69.
- 畔田暁子, 鈴木佳苗. 中学校美術科の鑑賞学習における教材教具の利用状況および課題. 美術教育. 2013, 297, pp.24-32.
- 三根和浪. 小学校美術鑑賞作品提示メディアの研究. 美術教育学: 美術科教育学会誌. 2000, 21, pp.265-275.

三澤一実. 新しい教科書活用の視点—図画工作・美術科における教科書の役割 (特集 日本の教科書—現状と課題). 教育研究所紀要. 2002, 11, pp.27-30.

文部科学省. 中学校学習指導要領解説美術編. 2008.

日本美術教育学会研究部. 図画工作科・美術科における鑑賞学習指導についての調査報告—2003年度全国調査結果. 日本美術教育学会, 2004.

日本造形教育研究会. 美術1. 開隆堂出版, 2012.

日本造形教育研究会. 美術学習指導書1. 開隆堂出版, 2012.

日本造形教育研究会. 美術2・3. 開隆堂出版, 2012.

日本造形教育研究会. 美術学習指導書2・3. 開隆堂出版, 2012.

酒井忠康他. 美術1. 光村図書, 2012.

酒井忠康他. 美術2・3上. 光村図書, 2012.

酒井忠康他. 美術2・3下. 光村図書, 2012.

田村恭久. EDUPUB Tokyo 2014. EDUPUB 全体説明.
<http://www.slideshare.net/JEPAslide/day3-edupub-tokyotamura> (accessed 2014-09-24).

(平成26年9月30日受付)

(平成26年11月18日採録)